

Ⅲ 成果と課題

1 視点1 道徳的諸価値を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

① 児童が資料理解と課題意識を持つために、資料の事前読みを行う。

《成果》

- 資料の事前読みを行うことで、課題意識をもって授業に臨めるようになった。
- 登場人物の心情を捉えやすくなった。

《課題》

- その授業における事前読みの目的や、また資料の内容が事前読みに即したものであるかどうか吟味して行う必要がある。

② 児童が考えを明確にするために、書く活動を行う。

《成果》

- 児童が自分の考えを整理して書くことができ、自信を持って発表する姿が見られた。

《課題》

- 振り返りに、授業中、話し合ったことや気付いたこと、感じたことを児童がもっと書き表せるように、ワークシートの文言や発問を工夫するなど手立てを講じる必要がある。

③ 児童が多様な考え方・感じ方に触れ、自己を見つめるために、意見の交流の場面を設定する。

《成果》

- 意見を交流することにも慣れ、「しっかり聞いて話す」習慣が身に付いてきた。また、友達の意見を傾聴し、悩みながら自分の考えを導き出そうとする姿が見られた。
- 友達に質問をしたり、自分がどう考えるかを話したりすることで点と点だった児童の発言につながりがみえてきた。

《課題》

- 事前読み後に児童から生じた問いが、本時の内容項目と合致しない場合がある。その場はどのように授業展開をしていくべきか検討していく。
- 意見の交流の終結が、教師が想定する考えさせたい内容項目には収束せずに、いわゆる「オープンエンド」になる場合が多かった。ただ、これを児童の学習意欲が持続展開し、児童らの道徳的諸価値が成長しうる過程の一時間と考えれば、必ずしも内容項目に近づける必要はないのかもしれない。
- 意見を交流させる、主体的・対話的な道徳の時間を年間で、どの内容項目で、どの資料で扱っていくかを明記した道徳の年間指導計画の見直しが必要である。